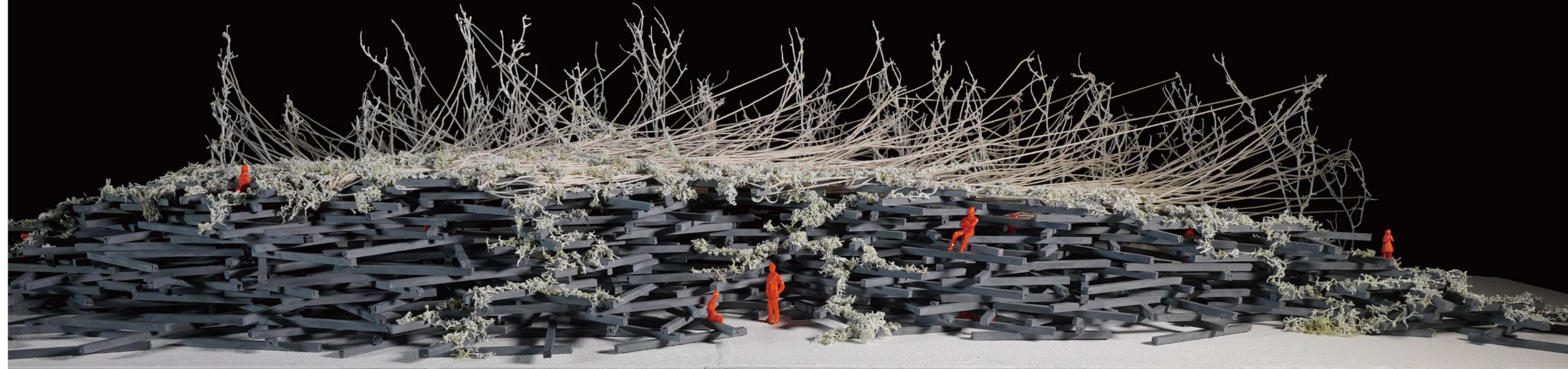


知覚と創造

—機能と形態の逆転による空間の提案—



00| 全国で計画されている機能主義建築

機能主義建築は時に合理性や利便性に縛られ、柔軟性がなく、目的の需要がなくなった時取り壊される。少なからずそこに誰かの居場所や思いがあったにも関わらずだ。

01| 地球最大の謎の痕跡を残す地「チバニアン」

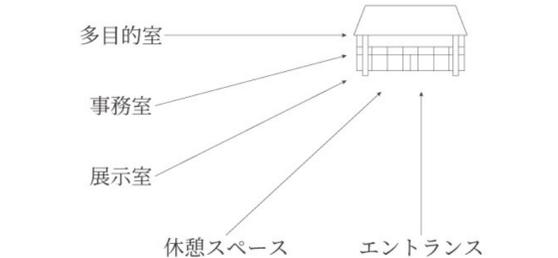
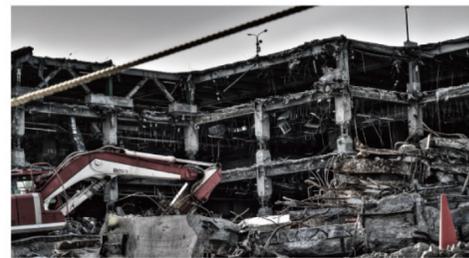
現在、私の地元である市原市でも新たなビジターセンターの建設が計画されている。この建築を起点に地球の地磁気逆転の痕跡を持つ地層「チバニアン」を観光地にし、チバニアンの保存と継承を目指している。

02| 市原市による計画に対する疑問

普遍的な建築計画
新たに建設される建築は必要な機能を抽出し組み合わせることできている。このような従来の建築計画では均質化された空間になり魅力を感じない。

継承から断絶へ
チバニアンの遺産が観光として需要がなくなった時社会的合理性の為に取り壊され、チバニアンの継承の為にあった建築がチバニアンを人々から断絶してしまうだろう。

チバニアンという特異な地で普遍的な計画を行うのではなく訪れた人々にこの地でしか味わえない体験を提供し遺産と添い遂げるような建築を目指す

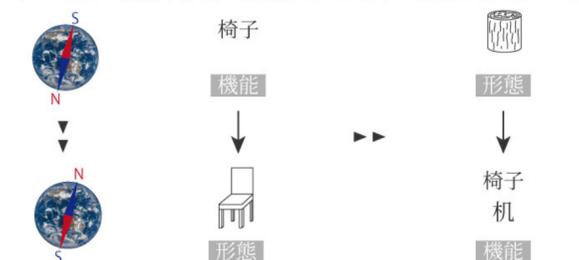


03| 千葉県市原市田淵

計画敷地は現在計画されているビジターセンターよりもチバニアンに近い場所を選定した。

04| 機能と形態の逆転

機能主義建築から脱却するため、地磁気逆転の痕跡を残すこの地で機能と形態の逆転による空間の提案を行う。

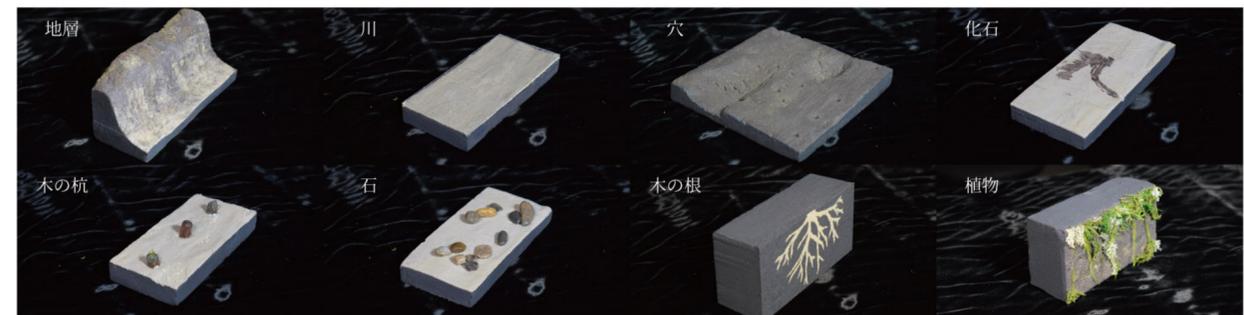


05| エレメントの抽出

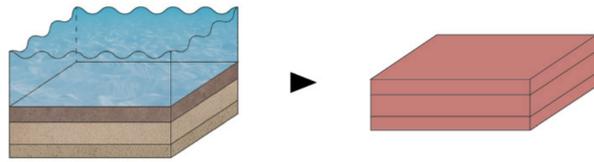
機能と形態の逆転を行う際の形態の手がかりとして、敷地のエレメントを抽出し、それらの建築化を行う。



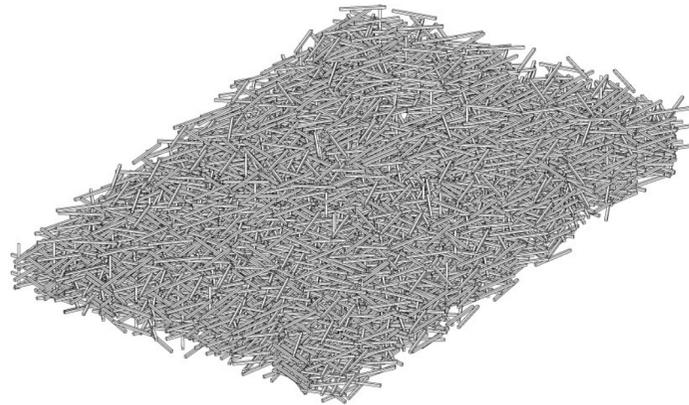
エレメント模型



06.1| 地層

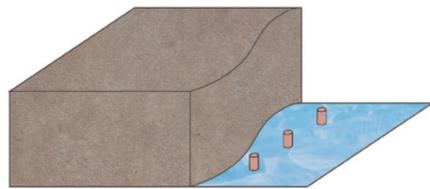


土砂が堆積し、大地が隆起する

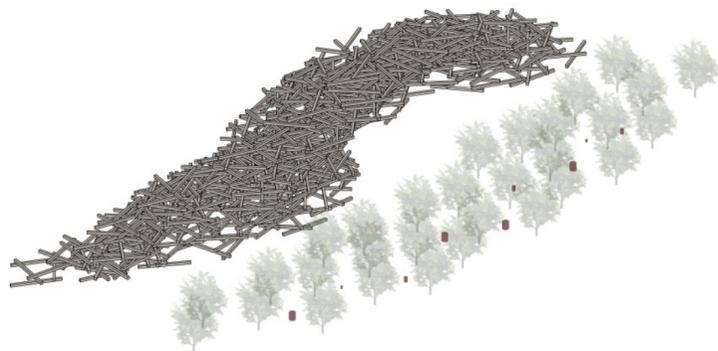


ブロックを積層させ、ボリュームを立ち上げる

06.5| 木の杭

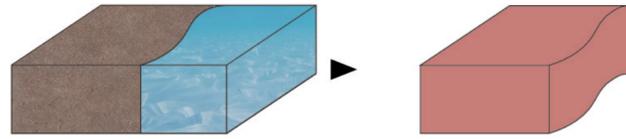


かつて川船を通すための堰に用いられた木の杭

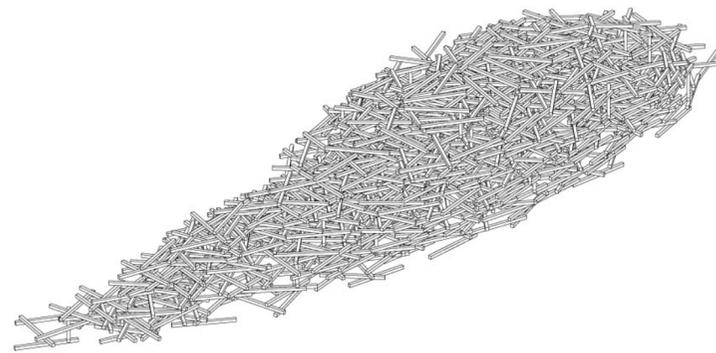


3つの異なる大きさの木の杭を既存樹木の余白に挿入する

06.2| 川

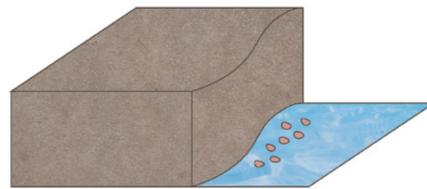


隆起した大地が川によって侵食される

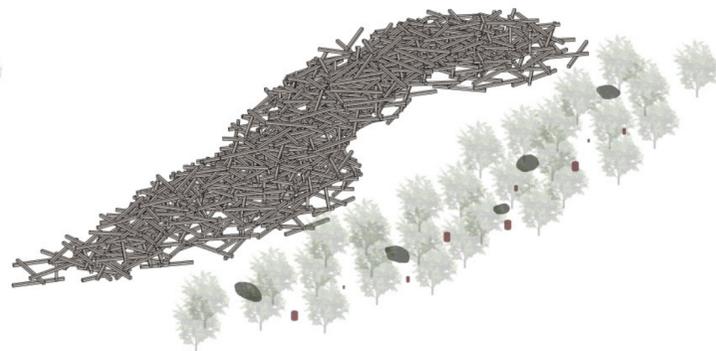


前面の川の形を引用しボリュームを削る

06.6| 石

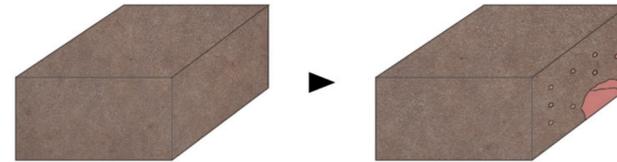


川の流れによって運ばれた石

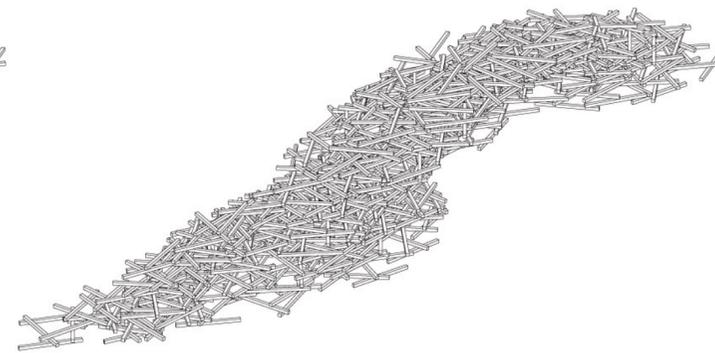


木の杭同様、既存樹木の余白に石を置く

06.3| 穴

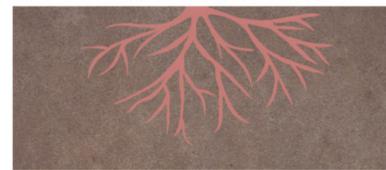


研究試料採取のためにできた穴

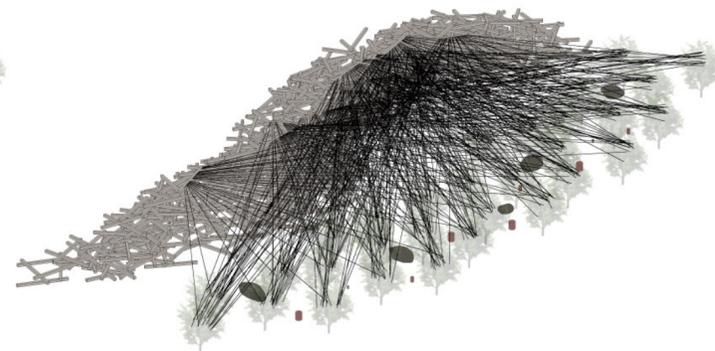


ボリュームに穴を開ける

06.7| 木の根

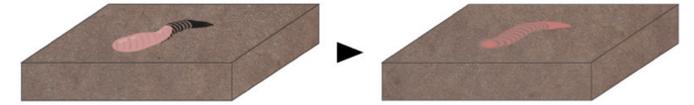


樹木と地層を繋ぐ

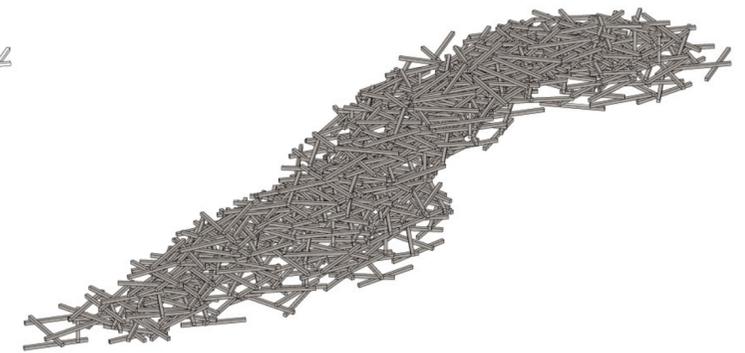


地層を模した建築物と既存樹木をロープで繋ぐ

06.4| 化石

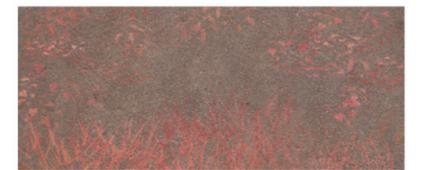


古生物の生活の痕跡を残す化石

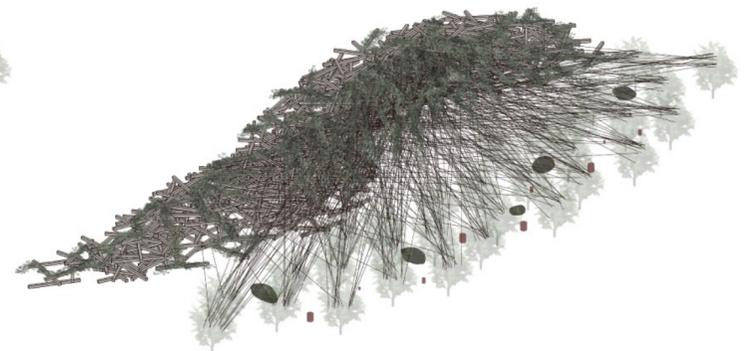


素材をコンクリートにすることで人間の痕跡を残す

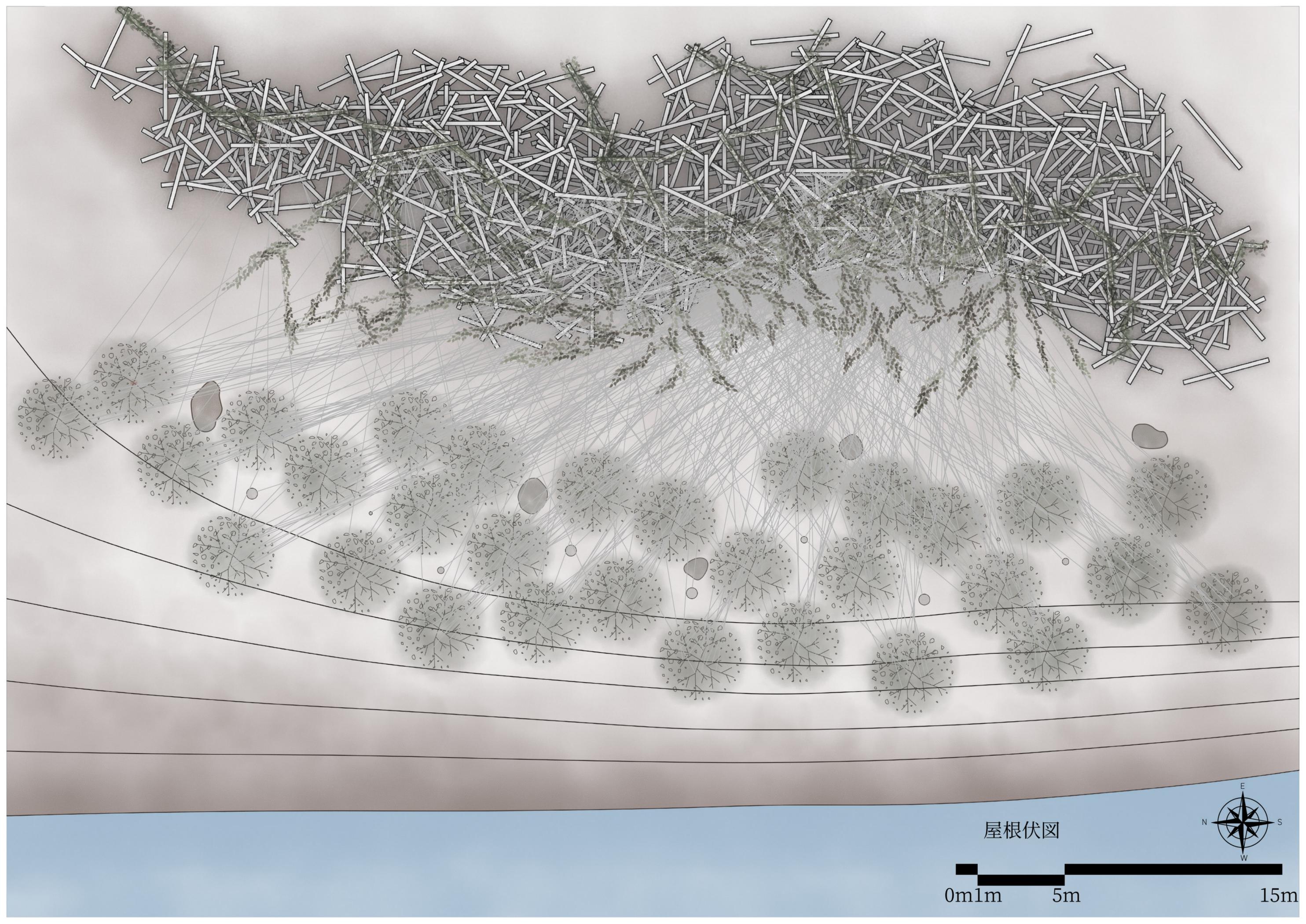
06.8| 植物



植物が繁茂して地層を覆う



ツタが建築物、ロープへと繁茂することで空間を覆う



屋根伏図



断面パース



木の根・植物のエレメント

地層・川・穴・化石のエレメント

石のエレメント

木の杭のエレメント

